

厭離穢土 欣求浄土

桶狭間で今川義元が討死。家康公は岡崎の大樹寺へ逃れました。その夜、住職・登誉上人は家康公に「なぜ戦う」と問います。「子孫繁栄のため」と答えると「所詮それは盗人の所業。あなたは天下の父母となって、万民の苦しみを無くすべきだ」と諭し「厭離穢土欣求浄土」の旗を与えたとのこと。

ミッションを 最初に定めよ

これは岡崎市の松平家菩提寺・大樹寺に伝わる逸話。見出しの漢字は「えんりえどごんぐじょうど」と読みます。平安時代の僧・源信の著書『往生要集』に書かれている仏教語です。意味は「苦悩の多い穢れたこの世を厭い離れたいと願い、心から欣んで平和な極楽浄土をこい願うこと」。この時、家康公は19歳。この日を境に今川家の部将から独立。亡くなるまでこの旗を掲げ続けます。この経緯はまるで、ドラッカーが提唱している「最初にミッションを定めよ」という教えを、そのまま採用しているように見えるのです。

ミッションが 組織を一体にする

ドラッカーは「ミッション」を、「組織の現在と未来の方向性を示すもので、メンバーが『私はこの活動を通して、組織のゴール達成のために貢献している』と確信をもてるもの」と定義しています。三方ヶ原の戦いの折、夏日吉信など家臣たちが自らの命を捨て家康公を守りました。『孫子』が言う、君主と家臣が一体となる「道」の状態です。家臣たちは「旗印の世を実現してくれる人」と期待し、家康公は、その願いを受けとめ自らの使命として胸に刻んだ。それ以降家康公は、旗印の実現に向かって突き進んでいくのです。

参考文献 『厭離穢土欣求浄土～家康公の平和思想』（岡崎学講座資料）／『日本思想体系6源信』／『非営利組織の成果重視マネジメント』／『非営利組織の経営』

文・鈴木厚夫／家康公商品開発プロジェクト相談員担当専門家、プランナー、E-アーキテクト代表

ミッションを掲げよ！